長畝ふるさと通信

【2019年4月号】

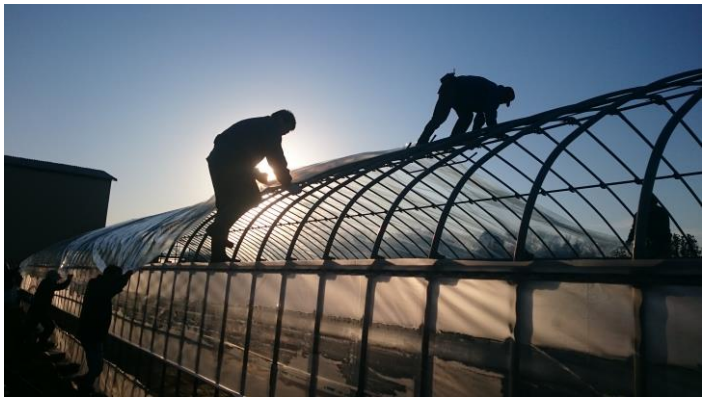
■　田植えの準備、着々と

３月の下旬から始まった田んぼの耕耘作業も大詰めを迎えました。耕耘を終え水が張られた田面に映る雲や夕日がとってもキレイです。毎日、朝から晩までトラクターで田んぼを耕してきた職員たちは、これから田植に向けてまた、同じ田んぼの「代かき」をやっていきます。約2カ月間、相も変わらず同じ風景を眺めながらトラクターに乗りっぱなしです。心も体も固まってしまいます。

一方で4月に入ると種まき、育苗が始まります。昨年から田植え機が１台減って「３台体制」になったのですが、そのせいで昨年は苗の生育に田植えが追いつかず、結果として「老化苗」になって初期生育が悪かったという反省がありました。

そこで今年は今まで4回に分けて播種作業をしていたものを6回に増やし、その分広範に苗の生育を分割することにしました。これで苗が老化することなく、適期に健全な状態の苗を植えることができるはずです。

■　毎年のように暴風にやられる育苗ハウス　自然のいたずらも程々にしてほしい



ここ数年、毎年のように秋の暴風で育苗ハウスのビニールが破壊されています。昨年秋も2棟やられ、今月に入ってやっと張替えました。無風状態の早朝6時から20名を動員して一気にビニールを覆っていくのですが、ハウスに昇ってビニールを引っ張る人は大変です。80メートルにわたって重たいビニールを引っ張りながらハウスを骨伝いに歩かなければなりません。朝露で滑る骨の上を歩くのはかなりの重労働ですが、その前に高所の苦手なボクはただ下から偉そうに指示するばかりですが。

手前が張り終えたばかりのハウスです。奥のものと比べるとビニールの透明度が全然違うでしょ。ちなみに1棟30万円也。少なくとも5年はもってほしい・・・

■　桜満開、天候最悪の祭りでした

長畝鬼太鼓保存会を結成して最初の祭りは朝から大荒れでした。冷たい雨と強い風が1日中吹き荒れ、青年会の兄ちゃんたちの気力と体力を奪っていきました。ここ数年雨には見舞われたも

のの、歩けないほどの強風は経験がありませんでした。それでも最後まで脱落することなく全員が深夜のお宮入りができたのは、保存会の後押しがあったから・・・ではなく、単に寒すぎて酒が進まず（最近の若者はビールしか呑まない！）酔っ払いが少なかったから・・・保存会のおじさんたちは早々に酔いつぶれ、ボクをはじめ一人として宮入りしたものはいませんでした。やっぱり年寄りにはキツイわ（呑みすぎだの声も外野から聞こえまくりましたけど）。・・・これも伝統芸能とするか。

祭りの翌日は前日の荒天が嘘のような日本晴れ、戦没者慰霊碑の隣に咲く桜も満開です。戦争で散った英霊のみなさんは「令和」なんて元号が来ることを夢にも思わなかったことでしょう。ボクの人生も半分以上は「平成」です。昭和天皇崩御の時とは全く違う感覚で新しい時代を迎えることになりますが、果たして明るい未来は来るのでしょうか。「平成時代」はバブルが崩壊して景気が低迷し自由競争で世の中のタガがはずされ、それでも東日本大震災で日本人の良さを再認識した気がします。一方でスマホが普及し情報を好きなだけ手に入れられる便利な世界となりました。これからは「AI」とかいうものが支配していくんでしょうか・・・。

夜になるとカエルの鳴き声が聞こえるようになりました。ツバメも納屋に新しい巣を作り出しています。タラの芽の天ぷらが晩酌のつまみです。

散歩通勤を始めたら、やたらと空の雲が気になります。「上を向いて歩こう」を実践する今日この頃です。